

前山会長大いに語る



館高同窓会報



—会長就任の抱負をお聞かせ下さい。

私が本校を卒業しましたのは、昭和三十七年の三月ですから、早いもので、今年の四月で丁度五十年になります。各界で活躍される二万二千人余を数える同窓生諸兄の中から、この廣く、会長に任命頂きましたことに大変な責任を感じております。その意味を踏まえ、同窓会発展のために微力を尽くしたいと思っております。

—各方面へのご提言をお願いいたします。

まず同窓会についてはいかがでしょうか。本校は創立以来九十年の歴史を持っており、その歴史の重みの中で、同窓会はこれからも、地域や社会に大きな貢献と、責任を担う存在として活動することが要請されていることを強く認識する必要があると思っております。そのためには、各界で活躍する方々への応援をせび行っていきたいと思っております。

ちなみに、今回のロンドンオリンピックにレスリンググレコローマン六十キロ級で銅メダルに輝いた松本隆太郎選手の出場に際しても、同窓会としても強く応援いたしました。

また、東京同窓会をはじめ各支部の今後のさらなる充実拡大を切に願っております。

—次に同窓生についてお聞かせ下さい。

在学中の数時間で経験する交流は、クラスメイトや部活動の先輩や後輩の出会いを含めてもそう多いものではないと思えます。しかし、卒業して多くの同窓生に出会い、母校を同じくすることの困難さを改めて感じるものです。さらに、同窓生であることにより様々な互恵が生ずることも、母校を同じくすることの信頼があつてのことです。同窓生同志が積極的に情報交換できる連携が強化できればと思っております。

—次に母校についてお聞かせ下さい。

先ほど申し上げました通り、母校は昨年創立九十周年を迎えました。その伝統と歴史のなかで在校生諸君の活躍は近年目を見張るものがあります。難関大学への進学者も増加しております。地域社会からも大変信頼される実績をあげています。また、部活動においても硬式野球部の二年連続ベストエイト進出等

多くの部活の活躍には本当に頼もしさを感じています。高校生活は長いようで本当に短いものです。また、様々な失敗もつきものです。しかし、その失敗を乗り越えることが出来るのが若さです。自分の力を信じて目標に向けて進んでください。

—最後に今後の同窓会についてお願いします。若狭前会長のお力により、現在の三百人規模の同窓会総会が定着いたしました。今までもない画期的なことでした。今後もこの方式を継承しつつ、参加諸君のご意向を聞きながら、参加しやすい同窓会を目指し所存です。同窓諸兄のご協力を切にお願ひ申し上げます。

号外 ブロンズメダル!

レスリング男子グレコ60kg級

群馬ヤクルト

松本 銅

上毛新聞

号外

ロンドン五輪 London 2012

日本男子15大会連続メダル

伝説つなげた松本隆太郎選手が、ロンドン五輪レスリング男子グレコローマン60kg級で銅メダルを獲得した。松本選手は、大会史上初の日本人選手として、この種目で銅メダルを獲得した。松本選手は、大会史上初の日本人選手として、この種目で銅メダルを獲得した。松本選手は、大会史上初の日本人選手として、この種目で銅メダルを獲得した。

ロンドンオリンピック

レスリング男子 グレコ60キロ級

平成16年卒

松本隆太郎

生徒の活躍に期待

昨年、同窓会の皆様を中心として、館林高等学校創立九十周年記念式典が盛大に開催されました。同時に、記念講演会で、株式会社キリンビールの当時の取締役社長の松沢幸一氏をお招きできたことは、真に喜ばしい限りでありました。同窓会の皆様にも、改めて、ここで感謝申し上げる次第であります。

あいさつ

さて、本年は念願であった、五十キロメートル強歩大会が天候に恵まれ、三年ぶりに開催することができました。多くの生徒たちが完歩し、充実感に浸ることができたと思っております。来年以降も、また、天候に恵まれて、毎年、実現できることを願うものであります。



校長 阿部芳夫

く、来年、大きな飛躍が期待できるところまできたと自信を強めているところでもあります。関東大会には、レスリング部の団体及び個人、陸上競技部、ポーツ部、体操部個人と、それぞれ出場権を獲得した選手が多かった大会でもありました。

また、それぞれの種目ごとのインターハイ予選を勝ち抜いて、レスリング部、団体と個人、陸上競技部、ポーツ部がそれぞれ、全国大会への出場権を獲得しました。群馬県全体の壮行会でも、ひとつの学校で、これだけ多くの生徒が出場するのは、珍しいことではないかと、ある関係者にいわれるくらい、ひとつの学校から多くの生徒が出場することになり、校長としても喜ばしい限りであります。

去る10月22日、創立90周年記念式典に引き続き記念講演会が行われた。

講師はキリンビール社長・松沢幸一氏(42年卒)

演題は、「学習と成長」前に向かっている。生徒一人ひとりが自分を見つめ直し、そして心に響く大変有意義な講演であった。

詳細は前号の90周年特集記事に記載。

OBによる

職業別進路講演会

去る6月8日(金)「OBによる職業別進路講演会」が開催されました。

と。ところで、九十一年目を迎えた本年の創立記念式典では、福山市立大学の副学長をなさっている、奥山健二氏をお招きし、生徒たちに有意義なお話をいただきました。こうして毎年、同窓生が記念式典の講演会の講師として、来ていただけることは本校の生徒たちにとって、すばらしい見本を見せることにもなります。生徒たちにとっても、励みになり、有意義であると確信しているところであります。

次に、学校の近況であります。大学入試の結果につきましては、この新聞の別の紙面に掲載されていますので、そちらを参考にさせていただきます。と。考えています。

皆さんもご存知のように、在校生は、同窓の諸先輩の皆さんのお力添えで、さらさらと進歩を遂げています。今後とも、ご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後に、同窓会のみならずのご発展と、同窓生の皆様の健康を祈念申し上げます。

別冊講演会」が開催されました。

講師は、現在さまざまな分野で活躍されている8名の先輩にお話ししました。

生徒からの質問も活発に行われ、それに真摯に答えてくださった講師の先輩の姿を見て、母校の生徒達がこのような社会人へと成長してほしいと思いました。また、事後アンケートでは自分の将来の進路を考える上で参考になった生徒が、また目標を持って現在の学習に取り組むという意欲が高まったという生徒が多数を占めました。また、その他の感想としては、人間関係を豊かにし、「コミュニケーション能力を高める必要がある」と感じました。

最新の専門知識を学ぶことができてとてもよかった。勉強をして自分のつきたい職業につけるように頑張りたいと思った。自分の仕事に生きがいを感じてやっているので、自分も将来そのような大人になりたいと思った。もう一生懸命勉強しなければならぬことが分かった。仕事の厳しさ、奥深さ、やりがいというものが分かった等がありました。



▽講師の方々△(敬称略)

- 中野栄一 ホテルグランフロントパレス
- 新井孝行 館林市役所
- 遠尾 伸 群馬銀行
- 本澤博幸 東武トラベル株式会社
- 大平 寛 大平尚法書士事務所
- 増田泰文 ソニーレディスソリューションズ株式会社
- 編田博孝 群馬大学医学部附属病院放射線部
- 下重貞昭 下重建築設計事務所

平成二十四年 同窓会本部役員

名譽会長 岩瀬 赤市 25年卒

参 与 矢口 昇 25年卒

谷津 義男 28年卒

松本 研司 38年卒

安藤同一雄 41年卒

副会長 阿部 芳夫 校長

前山 秀樹 37年卒

小嶋 泰男 26年卒

山崎 稔 32年卒

大塚 幸雄 35年卒

河本 榮一 36年卒

小嶋洋次郎 36年卒

鈴木 攻 37年卒

大隅 允雄 38年卒

山岸 勝美 38年卒

遠藤 和昭 42年卒

増尾 仁一 43年卒

岩瀬 志郎 49年卒

西藤 純一 52年卒

齋木 宏和 教頭/全

某原 忠 教頭/定

野村 博久 43年卒

瀬山 和弘 教諭/全

藤倉 和夫 44年卒

尾形 昭夫 事務長

飯塚 哲男 20年卒

飯塚 好美 42年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

監 事 飯塚 好美 47年卒

監 事 尾形 昭夫 47年卒

支 部 長

東田 大隅 29年卒

板倉 鈴木 37年卒

大田 大杉 38年卒

栗本 河内 30年卒

千代田 武井 30年卒

明和 小平 31年卒

伊藤 進 41年卒

足利 孝士 36年卒

館林 小嶋洋次郎 42年卒

館林 遠藤 和昭 42年卒

館林 遠藤 和昭 42年卒

館林 遠藤 和昭 42年卒

学年同窓会など

部外同級会 (球野きんぎょ)

私達が館林中学校に入学したのは太平洋戦争も終戦の昭和十九年で、入学時には四年で卒業のはずでしたが戦後の学制改革で四年卒業でも五年でも認められ更に六年通学すると高校卒業となった。戦後の混乱を前に書いたような状況だった。従って同級会の通知には「昭和二十三年四月、二十五年館中館高卒業生同窓会」と長い名称になる。しかし多様な中学、高校生活を共に送った仲間だけに、絆は一層強いものがあるように感じた。



第三回卒業 坂倉 小林新内

社会の第一線を走り時間のゆとりが持て始めた昭和の終り頃から折折り同級会が開かれたが平成十年頃から毎年五月に館林市内の会場で開催されるようになった。ただ残念なことは物故者の人数が年々増えていることだ。それらの方々のご冥福をお祈りしてまず黙とうを捧げ、そして過去の同級生の発声で乾杯となる。時間を取れた妻の最後には旧校歌を合唱してお聞きになる。

卒業生追悼会 館高第三回卒業 会報小編委員

昭和26年卒業生の同窓会は、昭和55年館林、58年伊香保、平成二年館林、五年鬼怒川、七年那須と既に開催も過ぎ次回から毎年行うこととして次回幹事を決定した。以降12回目70歳の古希、19回目が77歳の喜寿記念で筑波山の一角で開催した。然し高齢者のため参加者が少なくなり、次回から地元館林駅に近いミヤコホテルとし、遠来者もその場で宿泊出来ることから、20回はサントリー工場見学と、母校に立ち寄り懐かしい館林を訪ねながら、近代化された校舎を背景に校庭で記念撮影をする。



21回は修正田園部工場の見学と歴史の説明を受ける。第22回は卒寿記念の節目となる平成24年七月五日、ミヤコホテル一階受付、二階35名同切りバスにて飯倉海老園の曹洞宗松安寺に向う。立派なお寺、本堂の仏壇には生花、菓物、だんごを供え同級生の東堂高山を弘氏と息子子の住職二人が、物故者92人の名前を読みあげ追悼追善供養が始まる。参加者全員焼香も終り一時休憩後追悼記念撮影をしてホテルに戻る。

五時より総会、卒寿記念祝辞会も大盛況、一年一度しか歌われない旧校歌を大合唱し、更に友好を祈り、次回同会を願って終了した。

幹事 齋藤勇市記

第3回卒業生追悼会

さる7月5日午後2時より第3回卒業生追悼会(館正同級生一団)が松安寺(飯倉町海老園)にて30名の出席者の中しめやかに営まれた。物故者92名の御霊に対し同窓の東堂高山を弘氏のみずから焼香を捧げられた。逝去された学友たちの御霊がやすらかな眠りにつかれますよう同級生一同お祈り申し上げました。焼香後焼香により物故者92名の御霊が読み上げられました。その92名の学友への思いを小編委員会長が語られ、80才を前に活躍を祝むことが出来たことへの感謝、そしてもう一度東道追悼会を開催したい旨のご挨拶で閉会となりました。その後高山を弘氏より功支所と寺請け制度に於ける寛永年間の岩崎藩領の状況と松安寺開山に纏わる時代背景についての貴重な法話を頂きました。その後全体写真を撮って同窓生は松安寺を後にされました。第三回卒業生会は19日0年(昭和55年)に第一回の開催を見て、昭和58年からクラス単位を学年に一本化しました。以来毎年開催され今年22回目の同窓会開催となりました。皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りします。

鈴木 優 記

恩師を囲んで 37年卒 3Aクラス会

早くも卒業して50年。在校中の三年時に40周年記念の行事が行われ、これに合わせて、新築・一部建設中の新校舎屋上で校歌の練習を行なったことが思い出されます。この40周年記念行事の一環として、佐藤春夫先生の記念講演があり、佐藤先生作詞に由来する新しい校歌が作られました。従って、私達は旧校歌で入学し新校歌で卒業でした。今年度の新校舎校歌のつなぎ年の私達の同窓会から、館高の新

石橋 敏 記



旧のつなぎ年として六代目の同窓会会長に朝山秀樹君が選出されました。この節目に合わせて、恒例のクラス会を設けました。次期幹事、一昨年館林高校同級生追悼会講演の講師であった、下関市立大学学長の枝野善弘先生、今年度の記念講演の予定講師である、福山市立大学副学長の岡山健二先生も私達の縁友です。クラス会は6月23日(土)に館林市内で行いました。当時、担任と新進気鋭な英語の由良智先生、副担任で強烈な数学の内山幸晴先生、情熱の情れの的であった音楽の里見あけ子(山田)先生の各方面より集まってくれた26名の縁友とで28名の宴でした。

「一年には勝てず、定額がー」の声も多く聞かれる年となり、今回は卒業生の椅子席の指定で宴を催しました。これは皆さんに好評でした。話は英・成人病・刑罰手続の自慢話・ゴルフのスコアと、いつの年の方々の話の内容は位でいて思っています。宴の席に席の女将から「しかし、この年は長く飲みますね。」と毎回言われ、それでも、飲み過ぎる者も無く、二次会でも参加者20名、年を取るのでなく、年を取り去り、若さを取り戻し、二次会後お決まりコースで帰途に行く元気な面々が健在でした。

また、元気な再会を約して、教会しました。

同窓会懇親ゴルフ大会 感想 ゴルフ会幹事 大塚幸雄

大会当日は、思われた静かな一日でした。大会の三日前の六日(日)に北関東各地に台風や低気圧が吹き、つくば市などで大きな被害が出ました。気象情報では曇り午後雨と云うより雷に注意、最高気温三度、会場である飯倉ゴルフ場の近くには、雷の本宮雷電神社が鎮座しますので、むしろ悪いかもしれませんが、縁がなかったようです。

選手名	第1日	第2日
藤原	42	10
二八郎	11	2
藤原	13	2
藤原	4	5
千代田	5	6
藤原	6	10
大塚	10	3
大塚	3	9
藤原	2	2
藤原	20	54
藤原	20	54
計	110	109

- 一〇九名参加者 平均年齢は七二歳
- 上位入賞者 平均年齢は六七歳
- ゴルフス上位者 平均年齢は六二歳
- 組合せの特徴 ①同級生のクラブ活動の仲良しグループ②先年優勝卒業参加者数 ③三五年20人の三四年12人④四二年9人⑤三六年8人⑥四一年7人⑦二八年6人
- 初参加者16名
- 新ベリア、GRROSS順位の対比

ベリア	GRROSS	GRROSS	ベリア
1	7	1	24
2	16	2	44
3	23	3	6
4	8	4	5
5	4	5	20
6	3	6	12
7	25	7	1
8	11	8	4
9	27	9	17
10	22	10	18

○新ベリア方式の競技会ではそのまま上手で隠しホールの読み勘所がある人が上位入賞を果たしている様です。

支部活動

東京同窓会

同窓会HPを何とか！

副会長 谷田部和之
(事務局長)

六月二十三日、館林、相生、太田の東毛地区三校による同窓会交流・懇親会を行いました。群馬県人会連合会「上毛倶楽部」の会場で、三校の出身者が話し合っ中から生まれたものです。各校十名の参加でしたが、各校の活動報告をはじめ、地味、血縁、仕事の交流等、予定時刻を超えて盛り上がった交歓会になり、多くの刺激を受け、今後定期的に開催することが決まりました。



同窓会への参加呼び掛け・活動報告等にインターネットを利用すべきとの声から、事情に詳しい若手役員連の協力で「Oro Oro」上に「館林高校東京同窓会」のブログが本年一月立ち上がり、母校のホームページ(HP)の項目に加えていただきました。早速「休み時間」に館林高校のHPを見て東京同窓会の存在を知った。卒業以来三十五年、これからは機会を捉えて参加したい。

また、在校生交際からも「参考になる」との声が聞きました。このことから、ブログ作成に尽力した東澤康文君(前四十五年卒)は、同窓会のHPがないのは残念と、母校のHPに「同窓会」の項目を創ることを提案しています。パソコンや携帯電話で、インターネット上の情報が瞬時に入手できる今日、連絡事項、会報等を過去に遡って鮮明に見ることのできるHPは、一度作成すれば、何年にも亘って活字情報よりも低コストで便利な広報手段となります。今後は、活字情報との併用が求められていると痛感しています。

館林支部

同窓の絆

館林支部長 遠藤 和昭

七月十四、十五日は館林まつりがありました。朝前後して各區でも祭で賑わいます。ところが子供供神輿が区内を練り歩くことができない区が増えています。子供の人数が少なく担手が不足して引き回しをせざるを得ない区も増えています。さびしい思いです。若神輿と一緒に子供達が隣の祭半日で賑をぶらさげ各家庭を回り「お喜ばれお楽しみします」と玄関口で呼び掛けてくれたものでした。

昭和二十九年四月一日、一町七村合併により館林市が発足しました。当時人口五万六千四百人、現在七万九千二百人、地区別人口比では、六郷31・8%多々良24・5%館林15・5%赤羽8・5%郷谷6・7%渡瀬5・6%三野谷4・2%大島3・1%になります。市中心部の少子高齢化が進んでいる昨今であります。

今年も支部総会が開催されました。昨年は計画準備によりやむなく中止となりました。三月二十八日、ニューミヤホテルを会場にご来賓、各地区支部長、会員四十五名の参加者により行いました。同窓の方々の出会い、懇談は時の経つのも忘れ盛り上がりしました。これこそ同窓

の絆であると気付かされた一時でありました。

九月二十六日第三回ゴルフコンペは会場を東武ゴルフクラブ三好コースに移して行いました。参加者は年々増えています。体育系の方が上位に入ります。特に野球部OBの方は強いです。これからも参加者を増やしていく努力をしていきたいと思ひます。

大泉支部

組織強化で益々元気に活動

館泉会会長 河内 初光

平成23年度版同窓会名簿に基づき、大泉町在住者名簿を作成(学年別・地域別)。今後とも、更なる新規会員の動員に努めたい。

主な事業は、1) 懇会・親睦会、2) 会報発行、3) ゴルフ大会、4) グランドゴルフ大会、5) 合同役員会・納涼会、6) 役員人事を強化など。

本部関係1) 懇会・懇親会、2) 本部ゴルフ大会参加など、各支部の懇会・懇親会出席など、大泉町は、今年の三月に町発足五十五周年を迎えました。大きな変化の中で、「日々新たに」して、また日に新たな一歩、校歌を詠んで斉唱し、元気に活動したい。

太田支部

明るい話題に華が咲く

太田支部長 大杉 幸一

支部総会兼懇親会は二月に実施していたが、例年になく寒さが続いて居ました。四月に開催しました。少しでも寒さが和らげば参加者も増えるが期待していたが変化はありませんでした。

太田支部の活動はこの懇会と懇談会が主ですが、昨年は岩瀬前会長から母校沿革を資料に講話を頂きました。



明和支部

母校90周年を記念し、さらに未来に向かって

明和支部長 小平 進

平成23年11月20日明和支部総会を盛大に開きました。

今年は大田商業で教鞭を執っていた前山先生が本部会長となり、新役員体制での同窓会の在り方と活動について話された。学校からは藤子事務長に出席して頂き、創立九十周年記念事業と顕彰整備による教育功徳、生徒の活動状況について報告がありました。

また、館泉会河内支部長と前栗町農田副支部長から支部の活動状況を頂き、母校の現状や同窓会行事、大泉・館泉町同窓部の近況を知るなど実によく有意義でした。同校長の同窓校長は卒業生であり、群馬県高等学校長協会に就任されました。同支部からも永年にわたり教育に貢献された、昨年度の教職で購買小販受買された、横先生の明るい話題に懇親会も盛り上がり、次回は皆健康で再会できることを願ひました。

邑楽町支部

支部発足10年を迎えるまでに会員増を目指したい

邑楽町支部会長 大塚 孝士

邑楽支部の活動内容は、会員への情報発信(会員名簿作成配布・会報の発行配布)、会員相互の交流と親睦(グラウンドゴルフ大会・ゴルフ大会・田舎将棋大会・懇親会)、母校の発展を願い同窓会本部、各支部との連携等の3本柱を発定以来実施し実施してまいりました。

会員は5月の総会時に338人で僅かながら減少傾向にあり、食い止める策を講じることもなく今日に至りました。来年度は発足10年の節目の年を迎えるに当たり、役員一丸となってこれまでの事業活動の反省と評価を踏まえ検証をし、新たに会員400人オーダーを目標に邑楽町支部として活動したく設定いたしました。本部をはじめ、各支部よりご指導ご助言をいたしたく願っております。



場 登 師 恩

バラにバラの香
・松には松風



吉見 功 先生

新設したばかりの西巴英高
校で十年勤務した後館林高校
へ転動したのは昭和六十年で
あった。新設校と伝統校の違
いを肌で感じた。
英語の教師である前に先ず
本校の職員になろうと心を新
たにした。

三度目の全国制覇

森田 武雄 先生

昭和四十一年母校で私の教員
生活はスタートした。一年間定
時に勤務し四十二年より全日
制に移り四四総体出場選手の一
年生を担任し指導を開始した。
当時は合宿所もなく商業科の空
教室を利用し、長期合宿を実施

同年度に新校長として本校に
着任した奈良部長先生のリー
ダーシップのもとで大学進学率
をさらに向上させる動きが始め
られた。

学校の学習活動の基本である
教育課程の組み換えを皮切りに
様々な工夫が為され、進学熱が
高まりかけた頃に、隣の女子校
から橋校長先生が来られた。
ここにこの調の調にさらりと光
る信念の強さが伺えた。

生徒の学習の絶対量が不足し
ていることをすぐに見とるや
いなや「家庭学習量」を増やす
べく精力的に動き始めた。先ず
定期的に全生徒の家庭学習量を
調査し、各教科ごとのグラフを
作らせた。それをもとに各教科
・学年・分掌に命じて家庭学習
をさらに増やす対策を立てさせ

した。四十三年には二年生も出
場し堂々インターハイで三位に
なった。強化計画は合宿と遠征
試合を実施し東北・北海道まで
出向いて練習試合を実施した。
当時は秋田・青森が強敵であり
今年のオリンピックの日本選手
団の旗手の吉田選手の父親も青
森で活躍していた。館林でのイ
ンターハイで優勝している。四
十四年の八月のインターハイは
急造の郷谷の狭い体育館で行わ
れ当時皇太子だった天皇皇后両
陛下も訪れ、青森の八戸工業と
決勝では四対三の接戦で三度目
の全国制覇を成し遂げた。七名

た。「家庭学習量を増やせば伸び
る」という揺るがぬ信念をお持ち
であった。
全職員が悪戦苦闘の末、納得の
得られる指導方法を打ち立てた。
たちまち家庭学習量は倍増し、
家庭学習量はアップした。

有名私立大学を含む現役の生徒
の合格率は県下でもトップクラス
となり、それまで一桁であった国
公立大学合格者は二桁、やがて
四十人を超える進学の伝統校に復
活した。

生徒たちは元来、素質と才能を
もっていて、奮起と努力で見事に
花を開かせたのである。
個人的にも貴重な体験でした。
吉見先生には、昭和61年から平成4
年まで英語のご指導をいただきました。

のレギュラーの五名は私の担任の生
徒であり二名も同じ商業科の生徒だ
った。私の高校時代もそうであつた
が校長先生以下全職員、全生徒が暖
かい声援を送ってくれた。当時の一
年生で優勝を自にした金子先生（前
高校長）大泉高校出身の高田先生
（日本レスリング協会理事長・山梨
学院大教授）は体育関係や日本のレ
スリング界の頂点で活躍をしている。
その後十九年十一月母校に勤務し
新設の館林商工に移った。

森田先生には、昭和41年から昭和60
年まで保体のご指導をいただきました。

板倉支部

満ち足りた一日

板倉支部長 鈴木 攻

平成二十三年度板倉支部総会・懇親会
が二月十一日に行われ、前山同窓会長・
藤子事務局長・近藤各支部長・遠方より東
京同窓会各委員長鈴木さんら多くの御来
賓の御参加をいただき盛大に催されました。
特に今回は新会務になられた前山さ
んが私と同級生ということで、現役時代
をなつかしみながら船学に運動にそれぞ
れ一生懸命だった級友の今昔話に花が咲
き、改めて母校の卒業生でよかつたなど
感慨に浸りました。

当支部は、年一度の支部総会をメー
ンに本部主催の行事や各支部の総会に参加
させて頂いております。今年は数年前に
に復活した50km徒歩大会に支部として十
四名が参加、各支部毎のラリー形式では
ありますが、同級生達にもひげをこらな
い健闘ぶりを見せ、見事ゴールしま
した。その後の懇親会、ピールの旨か
つたこと、各支部の皆さんも参加して
みませんか。

千代田支部

松本隆太郎選手
ロンドン五輪でメダル期待

千代田支部長 武井 豊良

今年の四月、総会・ゴルフ大会を
実施したところ例年になく多くの同級生の
方々の参加をいただき、盛大かつ熱気あ
る大会になりました。一重に千代田支部
の同窓生の皆様に感謝申し上げます。
さらに、当支部では標記のごくレス
リング・グレコローマン60kg級の選
手として千代田中・館林高出身の松本隆
太郎選手がロンドンオリンピックに出場
が決定し、メダル獲得の期待も大きく、
本支部での活躍を応援しましょう。

去る六月二〇日に訂での社行会が行
われ、我が千代田支部の役員五人が参加し
社行金を差し上げると共に、メダル獲得
をお願いして参りました。なお、当日は千
代田中でも社行会が行われ、群馬テレビ
やNHK総合でも放映され、町民の方々の
盛り上がりは尋常ではありませんでした。
かつての上武洋次郎選手（同業社）
に続き、金メダルが獲得できれば最高で
す。皆さん応援よろしくお願ひします。
日程 八月六日（二）時 予選
七日（一）時一五分 決勝



O B 登 場

ロシア語翻訳家

37年卒 齋藤 純一



化学者を夢見て大学に入ったが、私はロシア文学の虜になっただけでなく、文学では書かれないと決意し、化学研究よりも文学研究に専らした。

ロシア語を学ばはじめた。私にはその後の後継者が、家では毎日、辞書を手にした。そして出会ったのがロスワマンである。私は彼の長編小説『人生と運命』を四年かけて翻訳し、今年みずす書房から出版することになった。

二十世紀ロシア文学の傑作の本邦初訳者となったことを誇りに思い、全三巻、千四百ページの翻訳本の巻末に、私ははじめて自分の名前をロシア語で記述して置いた。

館林高校三十七年卒

東京大学文学部化学科卒
東京大学文学部ロシア学専攻
東京大学文学部ロシア学専攻
一ツツ三年卒在 齋藤純一
一ツツ三年卒在 齋藤純一

活躍つづいていよう

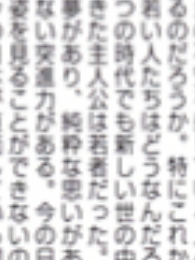
44年卒 津市 清高



三月に三十七年間の教職生活が終わる仕事という社会に對しての責任も、健康第一の実にゆつたりとした一日の流れにとても満足している。

「文武両道」

46年卒 春山 道三郎

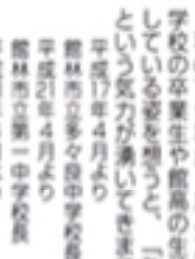


毎年三学期になると、三年生の入試面接練習が始まります。「〇〇高校に入学できたが、がんばりたいことは何ですか?」の問いに、「文武両道で、勉強も部活動もがんばりたいです」と多くの生徒が答えてくれます。生徒は、面接ガイドのおかげなのか「文武両道」という言葉が好きで、よく聞きます。第一中学校の卒業生が、入学した高校で面接の通りがんばっているという知らせを聞く、とてもうれしく感じています。

私が館林に在学中は、まだ商業科があり、部活動の主力は商業科の皆さんだったと思います。普通科の生徒は、私を始め「帰宅部」が多かったと思います。その頃の楽しみは、水曜日・土曜日の早朝の日に、友達とラーメンを食べることでした。現在の館林では、全て普通科でありながら、九割以上の生徒が部活動に参加し、

一生のスポーツと出会えた

52年卒 岡田 幸雄



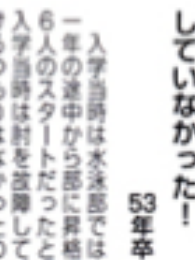
「学習と部活動の両立」という教育目標の達成を目指して、先生と生徒が一体となつてがんばっていると聞いております。私のできなかった「文武両道」を第一中学校の卒業生や館高の生徒の皆さんが実現している姿を見ると、「私もがんばろう」という気力が湧いてきます。

平成17年4月より
館林市立多々良中学校長
平成21年4月より
館林市立第一中学校長
平成21年6月より
館林高等学校評議員

現在私は、地元で小中学校にレスリングを指導している。私がレスリングを始めたのは、本校に入学後、レスリング部に入り高校・大学と続けた。私が、ちびっ子レスリングを始めるきっかけは、黒崎と兵衛・松本先輩の後押しがあり、すんなりちびっ子の指導者になることができた。さて、今回のロンドンオリンピックに教える子の松本隆太郎君が出場した。私は小・中3の9年間を指導した。小さい頃の彼は、決して運動能力が秀でた選手ではなかった。ただ、他の選手との違いは、一つのレスリング技術を教える自分なりに工夫して自分の物にする努力家であった。今回の出場は、日頃の努力の成果であった。今回の出場は、試合は大勝や予選を勝ち抜いた選手で、ちょっとした気の緩みは負けである。そんなフレッシャーの中で試合は辛かったと思う。私自身、彼の全試合を同じ会場で見ることができ、最高の幸せであった。彼にはいろいろとご苦労さんという言葉をかけたと思います。今後の自分には、第二の松本を自分の母校館林高校に送り続ける一人のサポーターとして努力していきたい。多くの恩師や先輩から教えて頂いたことを教えるに伝える一人でありたい。

館林高校に入学していなかったらロンドンオリンピック代表は誕生していなかった!

53年卒 齋藤 正昭



入学当時は水泳部ではなく水泳同好会、一年の途中から部に昇格しました。部員6人のスタートだったと記憶しています。入学当時は射を放っていたので、水泳を続けるつもりはなかったのですが、放課後になると先輩たちが教室の出口で待ち伏せして、毎日のように勧誘され、しかたなく水泳を続けた記憶があります。スイミングのコーチになる前は、証券会社に勤めていたが、卒業後8年が過ぎた頃に同級生の結婚式に招待されました。東京白鳥の結婚式で行われた式には、他の同級生もおり、その中の一人が「イトマンスイミング(現スウィング林スイミングスクール)を創めることにした」と言い出しました。軽い気持ちで「雇ってくれるか聞いて」と言ったのが水泳のコーチになったきっかけです。館林高校に入学し同級生に出会って、いなければコーチにはなっていなかった、それが冒頭の理由です。

コーチになり25年目に、水泳コーチの誰もが夢みるオリンピック選手を輩出することができました。コーチになった頃は夢でしたが実現できると思ってもいませんでした。インターハイや国体で活躍させるのが身近な目標でしたが、夢は追い続けるものだ、今回は改めて実感しました。在校生そして卒業生の皆さん、何歳になっても夢は追い続けてください。夢は叶うかもしれないよ!、でもこの一年間は休みもなくフレッシャーの連続でヘトヘトでした。もう味わいたくないかな(笑)

高校時代で思い出するのは、3年間お世話になった相澤先生と水泳部の先輩や同級生のこと。先生とは卒業後一度もお会いしたことはないですが、小さいのに怖かった記憶があります(怒られるかな)。水泳部の先輩とはかく愛しく面白く話しかけました。卒業生及び在校生の皆様優しい時代ですが健康に注意し、それぞれの与えられた分野で活躍してください。

館高Now

50km強歩大会、4年ぶりとなる完全実施

去る4月21日、爽やかな春の陽気のもと、伝統ある50km強歩大会が実施されました。

本大会は31回を数えますが、完全実施は実に4年ぶりとなりました。昨年は大規模な豪雨、一昨年は安全上の理由から中止、さらに3年前はスタートこそしたものの悪天に足踏われ、やむを得ず途中中止でした。そのため、各々が今年こそはと意気込み、準備を整えてきました。

今年度から一部コースを変更し、栃木県の湯沢運動公園をスタート、学校をゴールとする約50kmに55名が参加しました。

前日の練習会を経て、当日、同部校長先生から激励の言葉をいただき、「男の子の意気込みを胸に始め、スタート、Tシャツには大きく「強歩」の文字、在校生の内務君(2年)の力強い声が大気を盛り上げました。各自が己の限界に挑戦して歩き続け、高燃焼でチェックを受けていきます。保護者の皆様は協力をして



きながら、水分や地元特産の野菜、果実等で栄養を補給します。そんな中、やはり上級生、1年生を牽引するかのようになり、1年生は、残念ながら体調不良や時間制限で途中棄権をする姿が見られました。悔しさから涙を見せる生徒もいましたが、来年は必ず完歩してくるでしょう。午後の到着は三輪君(2年)で、時間は4時間40分13秒。完歩者は471名でした。

この伝統ある大会を経験し、真の館高生になったと感じた生徒も多かったようです。様々な面で今後の活躍に大いに期待したいと思えます。

●定時制だより

四月十日午後、本校定時制課程の入学式が挙行された。二十一名の新入生が同部部長から入学許可され、胸の白を込めた。

五月二十八日、開校記念講演会では、前山秀徳同窓会長から、演題「人生という宝物」をテーマに講演を頂き、前山先生のお人柄を伺い知ることができた。生まれたこの命、命と向き合おうとして自己の存在証明、体験が人を育てるなど、「今を大切に生きる」ためのヒントを見つけた。

昨年から日帰り旅行(軽井沢)に加えて、今年は妙正館林市ならではのボラティア活動を企画。つつじの各所に小さく「子供供養」を生徒と職員が初体験した。

みんなが地域のために、役立ちたいと真剣に思っていた。

この他、館林自動車教育所を会場に、警察署や交通安全協会のご協力で交通安全



「人生という宝物」講演会

部活動状況

運動部総括

今年度の部活動総括は15競技が参加し、昨年より進歩を遂げ、総合順位は19位(20位)であった。

中でも特筆すべきはレスリング部の活躍であった。団体戦決勝では大差をつけての準優勝。個人ではフリースタイル・グレコローマスタイル合わせて3階級で、赤田、金子、中村、木村、中野の計5名が優勝を果たした。

また、陸上部は選手が1500m・5000mの2種目で優勝、清水が2年生ながら5人入賞を果たした。水泳部は男子が1000m自由形で優勝、体障では団体3位、個人では井野口が入賞し、各々が関東大会への切符を手にした。

その他、山岳部が自衛、テニス、バドミントン、空手道がベスト16入りと、今後更なる活躍が期待される。

全教室を開演し、命の大切さを身をもって学んだ。

ハローワーク館林のジョブサポート(学卒型臨時雇用)を導入し、定時制ではじめて、夕方からの「就職ガイダンス」をスタート。

進路決定を目前にひかえた四年生たちは、模擬面接や講演に真剣、思いのが当たり前の生徒たち。だが取り組む姿勢には、明るさや力強さがみせている。

最後にE・T・A活動では新島部で、機本舎後にはいつもお世話になり有り難うございます。(定時) 教頭

進路状況

今年3月の卒業生236名の進路決定状況は、4年制大学が192名、専門学校が15名です。また、進学努力継続者は29名となっています。

合格者が多かった大学としては、東京大学29名、獨協大学19名、千葉工業大学17名、東京理科大学17名、東京大学17名、日本大学13名、立正大学13名、城西大学12名、中央大学12名、文芸大学11名、駒澤大学11名、国際医療福祉大学10名、専修大学10名などとなっています。就職先としては、筑波大学や千葉大学などの国立大学に、また、早稲田大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学、学習院大学、東京理科大学、聖光学院大学、同志社大学、立命館大学、関西大学などの私立大学に合格しています。

今年度の大学入試センター試験では、平均点が上昇した科目が多く、また、受験生の資格志向や国立大学志願者の地元志向の影響で強靱にいられたものの、多くの者が最後まで粘り強く受験に向き合いました。

昨年度と比較すると、大学合格者は、国公立大学で3名、私立大学で6名増加しています。特に、私立大学合格者の増加の要因としては、①大学入試センター試験利用入試での合格者の増加、②3月入試での合格者の増加などが考えられます。AO入試や推薦入試については、昨年度と比べ大きな変化はありませんでした。

さて、平成24年度の大学入試センター試験の大きな変更点として次の2点が挙げられます。①「受験教科の事前登録制」(出願時に必要な教科を受験する教科の登録が必要。特に、物理・公民・理科については受験する科目数の登録が必要。②「地理・公民、理科の受験方法の変更」(地理・公民、理科において、それぞれ1試験時間での実施、1科目受験の試験時間は60分、2科目受験の試験時間は130分、(130分+60分+10分+60分)であり、途中の10分は第1解答科目の書き直し、第2解答科目の書き直しに費やす時間)

平成25年度の大学入試センター試

私立大学 (合格者数)	
獨協大	19
青山学院大	5
学習院大	1
駒澤大	11
近畿工業大	8
専修大	10
中央大	12
東京電機大	17
東京理科大	3
東洋大	17
日本大	13
法政大	3
明治学院大	2
立教大	1
早稲田大	3
同志社大	3
立命館大	1
関西大	2
他	2
合計	395名

国公立大学 (合格者数)	
北陸工大	1
秋田大	2
茨城大	2
筑波大	2
宇都宮大	1
群馬大	8
埼玉大	4
千葉大	1
会津大	1
前橋工科大	2
群馬保健科学大	1
高崎経大	5
埼玉県立大	1
埼玉県立大	1
群馬大東大	1
群馬文科大	2
合計	34名

進路先状況

	(内訳前年度)
国公立大学	30 (29)
私立大学	162 (159)
短大	0 (1)
大学校・留学	0 (3)
専門学校	15 (9)
就職	0 (1)
自営	0 (0)
進学努力継続	29 (24)
合計	236 (226)
進路決定率	87.7% (89.4%)
大学進学決定率	86.9% (88.9%)

進路については、いくつかの改善がなされています。①受験教科等の登録内容の訂正が可能。②地理・公民を1教科と考へ、受験科目を登録。

また、現1年生から、数学・理科が新教育課程が始まるので、変更が予想されます。こうした変更を含めて、受験の仕組みを早期に把握し、生徒一人ひとりの進路目標の達成が図れるよう、全教職員で指導していきたいと考えています。

今後も、同窓会の皆さんのご期待に応えられよう、進路指導をしていきたいと考えております。ご不明な点やご質問はぜひお気軽にお問い合わせください。

館高Now

開業大会ではポルト部が総手付キック・ドゥルブルにおいて準決勝進出と、興大会で活躍した文芸部のインターハイでの輝きに期待が持たれます。

文化部総括

本年度も活動のみなぎりを、文化祭の活躍も顕著であった。文化部では昨年度の高校生文化祭大会にて最優秀賞を頂いた。

書道部総括.....
今年度は、3年生2名、2年生16名、1年生19名、計38名で活動を開始しました。

今年のチームは昨年度の選手権大会助成院を目標に、1年後には必ず強いチームになるという決意をもって練習に取り組みました。その結果、秋季大会ではベスト4という成績を残すことができました。春季大会では同様に常盤高校に敗れましたが、夏の選手権大会では、4回戦でその常盤高校を撃退しリベンジを果たしました。冬は練習では歴史を上回るベスト4進出をかけて常盤高校と対戦し、延長の末まで続く投手戦となりましたが、1-3で惜しくも敗れました。

部員達は文武両道を高いレベルで実現することを目的とし、日々の練習に励みながら甲子園で校歌を熱唱することを目標としております。今後とも皆様の応援・ご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

ポルト部.....
現在ポルト部は3年生2名、2年生4名、1年生3名の計9名という少人数ながら、力を合わせて日々練習に励んでいます。

今年のチームは4人で進む「総手付キック・ドゥルブル」として、ダブルスカルの2種目で大会に出場してきました。

生徒の作品が本年度は第14回関東地区高校生文化祭へへとコマを進めることができました。その他にも、演劇部(1名)、読書部(1名)、JVC部(2名)、美術部(4名)、情報部(3名)、科学部(1名)、新聞部(5名)と多くの生徒が文化祭に所属し、発表発表などに参加した。独自の作品を出展したり、日々活動に励んでいる。文化祭を通して本校生徒の更なる活躍を期待し、教職員、生徒が一体となって前進してまいります。

しかし関東選手権大会、開業大会、関東フットボール大会と全ての大会で準優勝、もしくは準決勝敗退と悲しい結果が残せませんでした。3年生最後の大会であるインターハイでは本音を一回で上回ることはできませんでしたが、敗者復活戦で勝ち、2種目とも準々決勝へ進出することができました。残念ながらもまだ敗れ、全国入賞を果たすことはできませんでした。野チームではこの悔しさをエネルギー源にして頑張ってほしいと思います。

今後とも皆様の指導を賜りますよう、よろしくお願ひします。

レスリング部.....
今年度は、3年生5名、2年生4名、1年生7名の総勢16名でスタートを切りました。生徒の体力が向上すると共に1年生の加入で競技力も向上しました。その結果学校対抗戦では優勝することが出来ました。

開業大会では優勝1人、二位2人、更に団体六位という好結果を残すことが出来ました。インターハイにおいても久しぶりの団体初戦を突破することが出来、個人戦においても二人の生徒が三回戦まで駒を進めることが出来ました。今後更に目標を高く持ち、進んでいくもつ自ら考えレスリングを目指し、日々研鑽を重ねていきたいと思っております。また、レスリング部OB会館小幡江文部室が練習に参加していたため、現役選手に指導を乞い、変わるぬ情熱を注いでいたに似ております。

今年も、オリンピックで銀メダルを取った松本陣選手のように世界で活躍できる選手を輩出できるよう精進し、伝統校の地味を見せていきたいと思っております。

陸上競技部.....
今年度は計21名で活動しています。主な個人成績としては、開業大会で本場が1500mと5000mの2種目を制覇しました。また、400mで清水拓海が3年生ながら入賞、同じく2年生の小松悠介が5000mで6位、食い込みました。清水は四種目で関東選手権への出場も決まっております。来年は勝負の年となりま

す。

続く開業大会では清水海が1500mで入賞と、本校陸上競技部としては実に24年ぶりと

なるインターハイ出場を果たすことができました。

また、昨年1月に開催された常盤高校伝ではら偉入賞と、2年ぶりの年度の関東大会への切符を手に入れることができました。個人・団体ともに結果を残すことができた同時に、入賞に届かなかった部員も自己記録を刷新し伸ばすことができました。

しかしながら、現状に満足することなく、恒ある本校陸上競技部を更に発展させるべく、日々精進していきたいと思っております。今後とも先輩方同様のご指導を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

サッカー部.....
今年度は、3年生19名、2年生20名、1年生27名の総勢76名で活動を始めました。開業大会では三回戦で常盤高校に敗れましたが、インターハイ予選では実力の情熱する能み合わせの中、藤岡中央高校、桐生高校を破り、3年ぶりにベスト16に入ることが出来ました。ベスト8をかけた準決勝戦は敗れてしまいましたが、選手たちは戦意を奮い立たせて、技術的にも肉体的にも精神的にも大きく成長しました。

全国高等学校サッカー選手権大会予選では、全国大会出場を目指し、これまでの練習と練習を併し、精一杯戦い抜きたいと思っております。

また、部員一人ひとりが文武両道を目標としており、サッカーを通じて人間形成を図る場と考え、日々取り組んでいます。今後とも皆様の応援を賜りますよう、よろしくお願ひします。

山岳部.....
今年度は3年生4名、2年生3名、1年生4名の計11名でスタートしました。赤城山で行われた高校総体1部(4名パーティ)、合計計6・5名で9位でした。

部員は3年生が引退し、2年生と1年生で活動しています。今年の登山活動ではダブルスの北沢・関ノ原、奥野山(白根三山)を三泊四日で縦走してきました。メインで全装備を背負った3000m縦走はたいへんハードでしたが、天候に恵まれ素晴らしい縦走と練習を楽しくすることができ、充実した登山活動になりました。

校には紅葉の山々に登り、冬にはスキー台や雪深い尾瀬での自然を享受しています。山岳部は四季を通して登山し、春夏秋冬それぞれの山の素晴らしさを感じられる活動をしています。

剣道部.....
一昨年の七月十七日に校内剣道大会が復活し、昨年度は十月十日、そして今年は十月八日にそれぞれ実施することができました。校内剣道大会の他に、九月八日に、本校併設の日会からも練習を繰り、第六十回全国高等学校剣道部大会を実施することができました。以上、剣道部の活動も毎年充実したものにしていきたいと思っております。

現在の部員は、二年生が一名的のみと、今年も不安が残るものの、今後一人でも多くの新入部員を確保し、部活動の質の向上を目指して所存です。

さらに、毎年五月、常盤高校にて行われる全国高等学校剣道大会において上位入賞を果たすことと、十一月に実施される群馬県高等学校剣道大会にて全国高等学校剣道文化祭への出場切符を手にするため、日々精進を続けています。

【レスリング】
学校対抗戦 優勝 館林フーオ大泉
個人対抗戦 F.G.50級1位 寺田
F.G.55級1位 倉澤 F.G.60級1位 中村
F.G.65級1位 太村 F.G.74級1位 中里
F.G.84級2位 飯島 11名が関東出場
【サッカー】
3回戦・前橋0-5 敗退
【バレーボール】
1回戦・太田0-3 敗退
【ソフトテニス】
団体戦 2回戦・前橋0-3 敗退

【山岳部】
1部出場(4人パーティ)66・5点9位
【駅伝部】
1回戦・高1-3-4 敗退
【野球】
1回戦・前橋2-3 敗退
【バスケットボール】
2回戦・太田50-70 敗退
【バドミントン】
個人戦・ダブルス ベスト16
シングルス ベスト32

【テニス】
3回戦・青葉1-2 敗退 ベスト16
【空手道】
個人戦(形の部) ベスト16
【個人】
1位 橋本 5000m 8位 小松原 常盤大会
1回戦・高葉1-3 敗退

【水泳】
学校対抗戦 男子総合11位
男子50m自由形1位
男子500m自由形1位
男子1500m自由形8位 常盤
【陸上】
団体総合3位 個人 井野口
開業大会出場
【硬式野球部】
夏季大会 2回戦・常盤3-1 敗退
夏の大会 準々決勝・前橋青葉3-1
敗退 ベスト8
【ポルト】
平成24年度関東大会出場

平成24年度インターハイ ダブルスカル
脱行キックオドルブル 準々決勝進出
【レスリング】
平成24年度インターハイ
団体1回戦・八戸2高4-3 勝利
2回戦・香川 中央3-1 敗退
【山岳部】
平成24年度関東大会1-5000m 5位
個人 インターハイ出場
【陸上】
平成24年度群馬県高校併設選手権大会
男子1000m ベスト8
【文学】
第14回高校生文化祭最優秀賞フットボール大会
代表として出場

【サッカー】
全日本大会出場を目指し、これまでの練習と練習を併し、精一杯戦い抜きたいと思っております。

【レスリング】
今年度は、3年生5名、2年生4名、1年生7名の総勢16名でスタートを切りました。生徒の体力が向上すると共に1年生の加入で競技力も向上しました。その結果学校対抗戦では優勝することが出来ました。

【陸上】
今年度は計21名で活動しています。主な個人成績としては、開業大会で本場が1500mと5000mの2種目を制覇しました。また、400mで清水拓海が3年生ながら入賞、同じく2年生の小松悠介が5000mで6位、食い込みました。清水は四種目で関東選手権への出場も決まっております。来年は勝負の年となりま

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月10日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で14回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和54年卒業生たち



↑新本部役員紹介風景(昨年の総会で)

日時：平成24年11月10日(土) 午後5時

会場：ジョイハウス (TEL.0276-73-4669)

◎参加券は総会幹事(下記)、本部役員、支部長さんからお求めください。

(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成24年 総会幹事

48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 雅彦	早川 元久	津方久満高	金子 重雄	野村 博久	酒井 和昭	神田 静一	伊藤 俊三	小宮 健雄	白井 佳長	増田 秀雄	宮内 敦夫	大塚 幸雄	山田 申	榎田十四雄	岡野 上	川生 宏	山口 豊巳	新井 新一
原 康高	井出 康弘	久保田康徳	渡久 智至	日比野正孝	藤原 康幸	飯塚 好美	清水 理夫	横山 哲也		高橋 敏	和田 千明		小林 寛夫	塩田 勝	橋本 博	石井 良雄	青藤 一美	栗原 保明	野野 高雄
吉水 敏昭	金子 博	黒沢 俊幸	中島 清	南江 勇	早川 紀正	樋田 明				初谷 光敏	小林 廣吉		増山 豊四	長谷山正博	平島 和雄				増山 芳弘

59年卒	58年卒	57年卒	56年卒	55年卒	54年卒	53年卒	52年卒	51年卒	50年卒	49年卒
長澤 始	中里 和典	池澤 勝也	和泉 昇	金子 政重	杉田 光雄	堀井 雅明	野村 清之	小島 忠己	渡久 敏昭	渡久 敏昭
荒井 康幸	石崎 治	橋本 元雄	藤野 秀雄	奥田 和美	井上 清明	岡部 好市	木沢 貴	はら 洋正	大川 善嗣	大川 善嗣
	初沢 智幸	元雄	松本 新一	木村 秀政	野木村 崇	岡田 幸雄	栗原 隆	中村 智宣	金子 繁	金子 繁

事務局より

●総会幹事を広く推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

●次幹の同窓会費を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。

□座番 0050200272533

□座名 群馬県立館林高等学校同窓会

●今年度の事務局員は、和泉、小林、淵山、桂木です。

編集後記

ロンドン五輪が無事終わりました。日本選手は団体の部での活躍が目立ったと思います。メダル獲得決定後の選手の話

原稿募集



皆さんが楽しんでやっていることを、ぜひご紹介ください。(特にジャンルは問いません、その面白さ、感動、面白さ、驚きなどを)

また、そのような達人(同窓)を知ってましたら事務局へご一報ください。

要項

- 原稿は、タイトル、享年、氏名、本文を適切な形に書いて送ってください。
- 本文の字数は、写真や図表ありの場合は400字以内、なしの場合は550字以内。
- 送付先は同窓会事務局へ
- 締め切りは25年4月末日

僕で一番多く読んでいたのが「感謝」ではなかったでしょうか。家族はもちろん支えてくれた人々への感謝の気持ちを綴りにむせながら語っている場面を目にすることが出来た。まさに純粋な心を持つ人間に驚かされる言葉ではないでしょうか。一緒に戦ったチームメイトへの「ありがとう」の言葉もあった。人間の絆、今後も大事にしながら生きていって欲しいと思います。

さて、会報制作以来、編集に携わって来られた飯島祥彦、山田申内氏が退任されました。これまでのご功績に対し心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。(鈴木)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-006 群馬県館林市東土京町1-1-1
TEL 0276-73-4669
FAX 0276-73-4669

編集委員(鈴木、山岸、酒井、岩瀬、青藤、藤原、渡久、淵山、桂木)